

特定離島である南鳥島とその周辺海域の開発の推進

南鳥島の概要

排他的経済水域及び大陸棚の保全及び利用の促進のための低潮線の保全及び拠点施設の整備等に関する法律(低潮線保全法)の政令により、南鳥島と沖ノ鳥島を特定離島に指定。南鳥島において特定離島港湾施設の整備等を実施。

また、低潮線保全基本計画(平成22年7月閣議決定)において、特定離島を拠点とした活動の目標として、海洋鉱物資源開発の推進も位置付けられており、周辺海域での海洋鉱物資源量調査等を実施。

1. 地理関係

最高標高：約9m (平坦な島)
面積：約1.5km² (1辺-約2kmの正三角形)
位置：東京から約1,950km



2. 施設関係

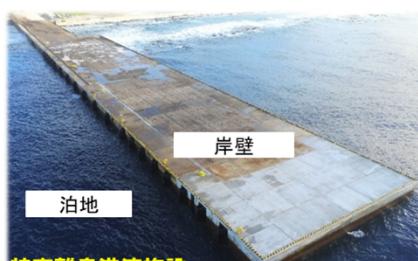
土地・建物等：防衛省・国交省・気象庁・林野庁が行政財産として所有
滑走路：自衛隊輸送機が利用
特定離島港湾施設：岸壁、泊地

※ 排他的経済水域及び大陸棚に関する法律
第2条第2号が規定する海域

出典：海上保安庁ホームページ



南鳥島



特定離島港湾施設



滑走路

資料：国土交通省・国土地理院・気象庁・防衛省HPに掲載されている情報を基に、内閣府総合海洋政策推進事務局が作成

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 戰略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期

海洋安全保障プラットフォームの構築(2023~2027年度)

地球深部探査船「ちきゅう」により、南鳥島沖水深約6,000mに存在するレアアース泥の採鉱及び南鳥島も活用しその分離・精製・製錬の実証試験を実施。

テーマ③ 海洋ロボティクス調査技術開発

長期の定点観測ができる「江戸っ子1号」や深海ターミナルのシステム連携による海洋広域モニタリングシステムを構築。複数自律型水中ロボットの協調群制御、航行型AUVドッキングも対象とした深海ターミナルに係る研究開発を実施。

テーマ① レアアース生産技術の開発



テーマ② 海洋環境影響評価システムの開発

テーマ3で開発するモニタリング技術も活用し、環境影響を評価・監視するシステムを構築。採鉱時に実施。

テーマ④ 海洋玄武岩CCS基礎調査研究

拓洋第5海山玄武岩層の地質調査結果に基づき、CO₂圧入に伴う浸透率や力学物性等の変化などCO₂貯留・固定化に関するシミュレーション・検証を実施。海洋玄武岩CCS(「二酸化炭素回収・貯留」技術)の概念設計を目指す。